

ゆたか倶楽部 よもやま話

vol. 19

これから2回に分けて(次回8月号)、「ふじ丸」についてお話しします。

「ふじ丸」は戦後初の本格的な外航クルーズ客船として三菱重工業神戸造船所で建造され、1989年(平成元年)に就航しました。全長167メートル、最大600人の乗客を収容でき、就航時は日本籍で最大の客船でした。

これより特徴は、5階最後尾に設けられた展望大浴場です。大海原を眺めながら入浴でき、ジャグジーやサウナ室もありました。いかにも日本の船らしい設備で、これはその後の日本籍クルーズ客船の標準となるだけでなく、ダイアモンドプリンセス(2004年就航)のように、日本でのクルーズ展開を考えて建造された外国籍の船にも大きな影響を与えました。

最新の設備として、コンピューターによる自動制御で横揺れを防止するフィンスタビライザーも採用されました。揺れと言え、思い出すクルーズがあります。2011年(平成23年)12月28日から出発した「宮古島・石垣島・沖縄クルーズ」です。ふじ丸をチャーターした弊社オリジナルのニューイヤークルーズの7回目、今までは九州

一周が多かったのですが、この年は沖縄も含んだ8日間のコースを企画しました。

実は「同じ会社の船が、同じ時期に、同じコースに行つてはいけない」という暗黙のルールがあります。同じ会社でお客様を取り合つてはいけないということです。ふじ丸は、ばしふつくびいなすの「日本クルーズ客船」と、にっぽん丸の「商船三井客船」が50%ずつ出資して設立したチャーター専門の船会社「日本チャータークルーズ」として2001年から運営されてきましたので、親会社の両船と同じ時期に同じコースには行けません。ばしふつくびいなすは台湾・沖縄クルーズ、にっぽん丸はサイパン・グアムクルーズが年末年始クルーズの定番なのですが、この年は日程とコースの関係で、沖縄のニューイヤークルーズがふじ丸チャーターでできることになったのです。

そこで、スペシャルなゲストをお招きしたいと思い、島倉千代子さんにメイン歌手として乗船していただきました。実は私は島倉千代子さんの大ファンで、自分が企画したチャータークルーズで歌つていただくことが夢でした。これまでのチャータークルーズでもずっとお声がけしており、3年間のアプローチがようやく叶いました。当時の島倉千代子さんは借金も完済し、仕事をかなり

セーブしていた頃。彼女のマネージャーが私と同じ長野県出身の方で、のちに知るので、最初に勤めていた旅行会社時代からの古い縁があったのです。うまく間を取り持つてくれました。

元旦の夜のメインショーに出演していただいたのですが、その夜の海が大荒れで、かなり激しい揺れになりました。しかも島倉千代子さんは船酔いするタイプだったので、私はマネージャーさんに「短めでもいいですから」と申し出たのですが、「彼女はプロなので大丈夫です」と。結果1時間15分、ご自身の

ヒット曲を10曲ほど歌つてくれました。舞台の上での挨拶は船が揺れているのでお客様にお断りをし、ふんばりが



島倉千代子さん、久葉キャプテンと一緒に

効かないので草履を脱ぎ白足袋に通しました。途中1曲だけ「他の方の歌ですが歌つてもよろしいですか?」と、なんと会場の皆さんに了解を得て歌ったのが、北島三郎さんの「兄弟仁義」です。「お控えなすつて!」と仁義を切るポーズをやるので、お客様も私もびつくりしました。コンサートは大盛り上がりの中で終了し、その後に久葉キャプテンと3人で撮った写真は、私の宝です。